

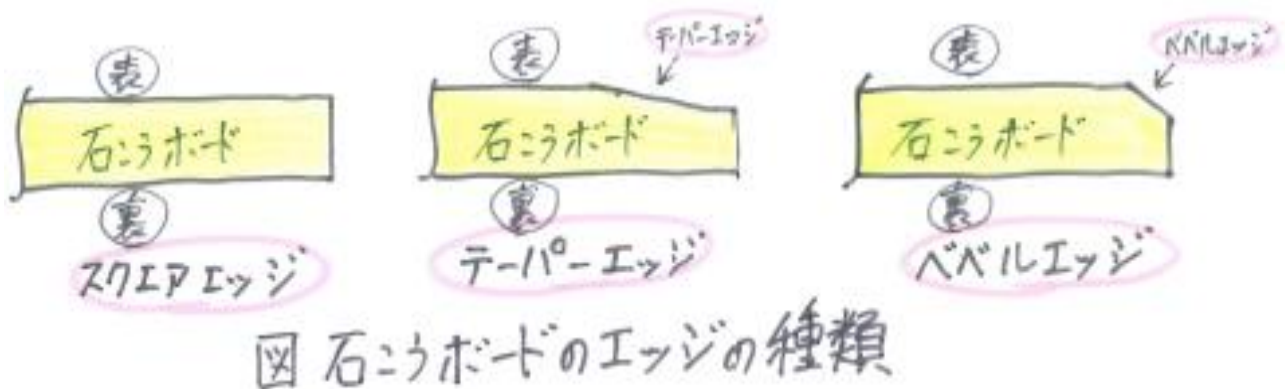
V 施工(18. 内装工事) ①重要事項の解説

「18. 内装工事」で2回以上繰り返し出題のある重要項目(H8～H27)は、下記の通りである。

(1) せっこうボード

※過去に選択肢問題として13回出題有

- 天井を石膏ボードで二重張りとする場合、上張りの継目と下張りの継目が**同位置にならない**ようにした。
- せっこうボード張りの遮音性能を確保するため、せっこうボードの周辺部隙間に**弾性シーリング材**を充填した。
- せっこうボードの目地処理を継目処理工法で行う場合、せっこうボードのエッジの種類は、**テーパーエッジ**とする。
- 壁面のせっこうボード接着材による直張り工法で、接着材の塗付け間隔は、ボード周辺部で**150～200mm**とする。
- ベベルエッジ**の目地処理は、ジョイントテープとジョイントコンパウンドとを用い、幅500～600mmの範囲で行った。
- せっこうボードを鋼製天井下地に取り付ける場合、**ステンレス鋼製ドリリングタッピングねじ**を使用した。
- 壁面におけるせっこうボードのせっこう系直張り用接着剤による直張り工法において、床面からの水分の吸上げを防ぐため、スペーサーを置き、せっこうボードを床面から**10mm程度浮かして**張り付けた。
- 化粧せっこうボード張りの軽量鉄骨天井下地の吊りボルトの間隔については**900mm**程度とし、天井の周辺部については端から**150mm以内**に配置した。



(2) フローリング

※過去に選択肢問題として10回出題有

- フローリングブロックは、床の**中央部から**四周に向かって張り進める。
- フローリングの割付けにおける寸法の調整は、**出入口を避けて**行う。
- フローリングボードの伸縮を考慮して、幅木及び敷居との取り合い部分に**隙間**を設けた。

(3) ビニル床シート

※過去に選択肢問題として7回出題有

- ビニル床シートは、施工に先立ち、巻き癖をとるため**仮敷き**を行った。
- ビニル床シートは、長手方向に縮み、幅方向に伸びる性質があるので、長目に切断して仮敷きし、**24時間以上放置**して巻き癖をとった。
- 湿気の影響を受けやすい箇所におけるビニル床シート張りに、**エポキシ樹脂系接着剤**を用いた。
- ビニル床シート張り及びビニル床タイル張りに用いる接着剤において、**エマルジョン形接着剤**は、溶剤形接着剤に比べて、安全性、作業性に優れている。
- ビニル床タイル張りにおいて、接着剤を下地面に塗布し、所定の**オープンタイム**をとり、床タイルを張り付けた。
- ビニル床シート張りで、シートの継目の熱溶接は、シートを接着剤で張り付け、接着剤が**硬化**した後に行った。

(4) タイルカーペット

※過去に選択肢問題として5回出題有

- ・全面接着工法によるタイルカーペット張りにおいて、下地がフリーアクセスフロアの場合、タイルカーペットは、フリーアクセスフロアのパネルの目地にまたがるように割り付けた。
- ・タイルカーペット張り工法で、出入口部分は、2/3以上の大きさのタイルカーペットが配置されるように割り付けた。
- ・タイルカーペットを全面接着工法により張り付ける場合は、部屋の中央部から端部へ敷き込んでいく。
- ・タイルカーペット全面接着工法において、フラットケーブルについては、タイルカーペットの中央付近に敷設し、フラットケーブルの端とタイルカーペットの端(目地)との間隔を100mm以上とした。

(5) エポキシ樹脂塗り床材

※過去に選択肢問題として5回出題有

- ・エポキシ樹脂塗り床材は、耐薬品性に優れており、工場及び実験室の仕上げに適している。
- ・洗面所の床には、エポキシ系接着剤を使用してホモジニアスピニル床タイルを張った。
- ・エポキシ樹脂系塗床仕上げにおいて、耐薬品性、耐摩耗性及び美観性が要求される床の場合、樹脂ペーストによる流しのべ工法を採用した。
- ・帯電防止ビニル床タイル張りの接着剤は、湿気対策を考慮して、エポキシ樹脂系接着剤とした。

(6) 合成樹脂調合ペイント塗り

※過去に選択肢問題として4回出題有

- ・鉄面に合成樹脂調合ペイント塗りを行う場合、下塗り塗料として錆止め塗料を用いた。
- ・亜鉛めっき面に合成樹脂調合ペイント塗りを行うに当たり、素地調整としてエッチングプライマーを塗布した。
- ・合成樹脂調合ペイント塗りは、耐アルカリ性が劣るので、コンクリート、モルタル等の素地に使用できない。

(7) シーリング石こうボード

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ・シーリング石こうボードを、屋内の多湿箇所に用いた。
- ・水まわりに使用するシーリング石こうボードは、水と接する可能性がある切断面及び小口部分に、水の浸透を防ぐためにエマルジョンペイントを塗布した。

(8) カーペット敷き

※過去に選択肢問題として2回出題有

- ・カーペット敷きを全面接着工法で行う場合に用いる接着剤は、融離強度よりもせん断強度を重視する。



図 カーペットの融離・せん断強度

(9) 吊りボルトの補強

※過去に選択肢問題として2回出題有

- ・天井ふところが1.5m以上ある軽量鉄骨天井下地において、吊りボルトの水平補強及び斜め補強の縦横間隔については、1.8m程度とした。

(10) 吊りボルトの間隔

※過去に選択肢問題として2回出題有

- ・軽量鉄骨天井下地の吊りボルトの間隔は900mm程度とし、天井の周辺部は端から150mm以内に配置した。